

KUME

NAHA

久米島

命輝く季節・初夏の球美島

ダイビング紀行

写真&文=越智隆治
Special Thanks=DIVE ESTIVANT
Design=Yoshiko Murata

そろそろ夏の訪れを告げる南風、
 カーチパイが吹く頃に、僕は2年続けて沖縄の久米島を訪れた。
 もうすぐ、暑い暑い夏がやってくる。
 そんな初夏の久米島で出会ったのは、新しい生命を育む魚たちの、
 健気で美しい、そして時には、あっと驚くような営み。
 透明度全開の久米島ブルーの海で、DIVE ESTIVANTのガイドたちと、
 トンバラで豪快なダイビングを楽しみ、
 他のポイントでは、小さな魚たちの姿を紹介してもらった。
 こんなシーンを見せられたら、
 あなたもきっと久米島にハマってしまうに違い無い。



久米島を背にダイビングへ向かうダイブエスティバンのyou-go号

6月 初旬の久米島は、梅雨が明けるか明けないかという微妙な時期。しかし、魚たちの生命誕生の営みが活発に見られる時期でもある。低すぎず、かといって高すぎず、多くの魚たちが繁殖活動をするには適度な水温なのだそうだ。「夏になって、水温が上がり過ぎると、魚たちがダレちゃって、かえって繁殖活動をしなくなるんです」とのこと。ということで、今回のメインターゲットは様々な魚たちの繁殖行動を見せてもらうことに。

とは言っても、やっぱりまずは透明度の高い海でのダイビングを楽しみたいのがダイバーとしての本筋。ということで、向かったのは、久米島の南にぼつんと島帽子のように鎮座しているトンバラ。久米島屈指の豪快なダイビングポイント。この時期見られるのは、イソマグロやカマスの群れ。ときには、ジンベエザメやタイガーシャークなどの目撃情報もあり、冬場には、ハンマーヘッドシャークの群れが姿を見せることもあるとか。

エン トリーと同時に、かなり離れたダイバーの様子もはっきりと見



トンバラ近くに群れで姿を見せたシワハイルカたち

えるほどの真っ青な久米島ブルーに感動する。その海の中を浮遊しているだけでも気分爽快。波が、トンバラの岩肌につつかって白い煙幕のようになるのをぼーっと見上げているだけでも、心地よい。

とはいえ、ガイドは、ゲストにイソマグロをより近くで見せるのが、トンバラでの腕の見せどころでもある。イソマグロの姿を視界に捉えようと、回り込んで群れを岩の方に追い込んで、ゲストダイバーがより安全かつ近くで見えるように奮闘する。潮の流れを読み、イソマグロの群れとの駆け引きをするガイドたち。ある意味、そんなシーンも、トンバラの見所であるかもしれない。今回は、10個体ほどの群れが2グループとバラけていたものの、「多いときには50匹くらいの群れが見られます」という。

昨年はトンバラからの帰路、シワハイルカの群れに遭遇。海中で見ることができなかったが、しばらくは船上からのウォッチングを楽しんだ。



01

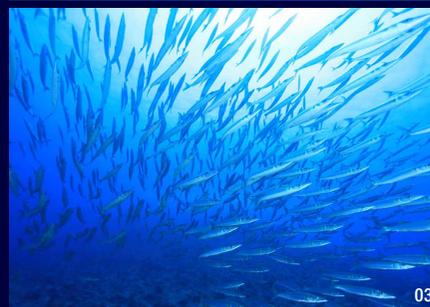


02



トンバラ名物、イソマグロの群れ。多いときには、数十匹もの群れになることも

トンバラの海の豪快さの代表格



03



04



抜けるような透明度の海中へエントリー

- 01/トンバラに到着
- 02/シワハイルカ
- 03/オオメカマスの群れ
- 04/トンバラの周囲をイソマグロを求めて移動する

久米島のダイビング紀行

命輝く季節・初夏の球美島



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~dive-estivant/index.html>

関連情報HPへ

北の月面空間では、アオウミガメとの遭遇が期待できる



何かに群れ集まるカスミチョウチョウウオ



02



03

トン バラの他にも、はての浜の南にある砂地のポイント、ムーチーグー（六つの根の意味）では、デバスズメダイで埋め尽くされたサンゴ、北の月面空間では、ウミガメとの遭遇を楽しんだ。シチューガマは、リーフ上に大きく口を開ける縦穴のポイント。久米島ブルーを堪能しながら、ワイド目線のダイビングを満喫した。



01



04



縦穴から横穴へと抜けるシチューガマ

01/オオメカマスの群れを追うように泳ぐウミガメ

02/ムーチーグーのデバスズメダイの群生するサンゴの景観は必見

03/何故かチョウチョウウオが、群れるバタフライバレー

04/透明度が良いから、吐き出すバブルも、爽快な感じ

ワイド系ポイント
久米島ブルーを満喫する

久米島ダイビング紀行

命輝く季節・初夏の球美島



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~dive-estivant/index.html>

関連情報HPへ

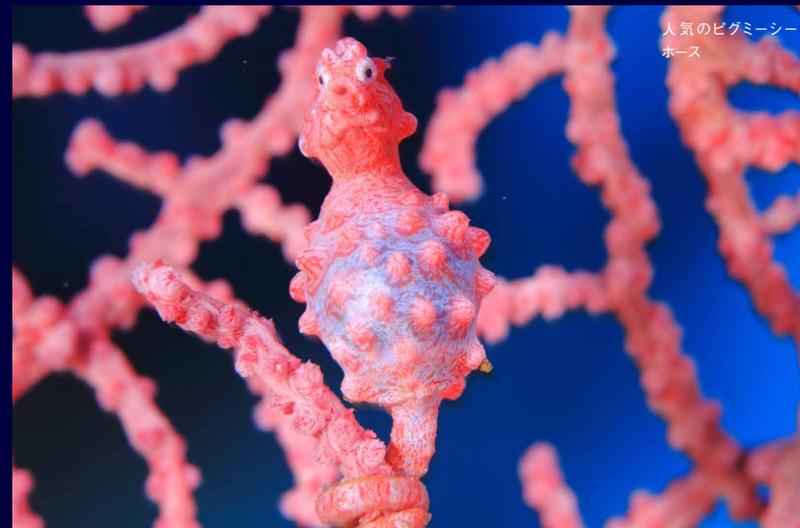
オスとメスが激しく回転しながら、求愛のダンスを行う



オスとメスが集まって、相手を見つけては、求愛行動を行う

カラフルな色彩に彩られる球美の海

求愛行動



人気のビッグミーシーホース

久米 島は、古来より琉球一美しいと言われ、「球美の島」の愛称を持つ。そんな名前にふさわしく、海中の魚たちもカラフルな色彩に彩られている。アケボノハゼ、フチドリハナダイ、ビッグミーシーホースなど、人気のアイドルフィッシュたちの色彩のカラフルさと風貌は、何度見ても飽きることがない。

に行われる時期。婚姻色に身を包んだオスの魚たちが、あの手この手でメスの気を引く求愛行動はずっと眺めていたくなる。

その中でも代表格と言っているのが、スマレナガハナダイの求愛行動。ウーマガイというポイントのドロップオフ、水深30m付近で、スマレナガハナダイたちが、群れ全体で求愛行動を行っているときのオスの激しい動きと婚姻色は必見だ。

特に この時期は、繁殖行動が盛ん



01/ドロップオフ下のスマレナガハナダイのコロニーへと潜降
02/フチドリハナダイ
03/アケボノハゼ

久米島 ダイビング紀行

命輝く季節・初夏の球美島





ハナゴイの求愛のダンスは、オスがメスを胸ビレに挟み込む



ヘラルドコガネヤッコの求愛行動

この ウーマガイでは、薄暗くなってからのサンセットダイブを何回か行った。多くの魚たちの求愛行動が活発に行われる時間帯だ。今回の久米島取材の中でも自分自身一番楽しかったダイビングかもしれない。

見られるのは、サザナミハギ、ナガニザ、ハナゴイ、ヒレナガヤッコ、ヘラルドコガネヤッコ、シテンヤッコ、メガネゴンベなどの求愛行動。

ナガ ニザやサザナミハギは、リーフトップのドロップオフの際で、集団放卵放精をする。あちこちで塊になって、花火を打ち上げるように行う放卵放精は、地味な体色ながら、わかりやすく見学しやすい。その下、緩やかなスロープ上では、ハナゴイのオスがメスを引きつけるために、婚姻色になり、求愛のダンスを始めている。ペアになったオスとメスは、オスが胸ビレでメスを挟み込むようにして、放卵放精へと行き着く。



01/メガネゴンベの求愛行動
02/メス(左)に、ナズリングを行うシテンヤッコのオス
03/メス(左)にナズリングを行うヒレナガヤッコのオス

魚たちの求愛の共演のステージ

サンセットダイブ



02



03



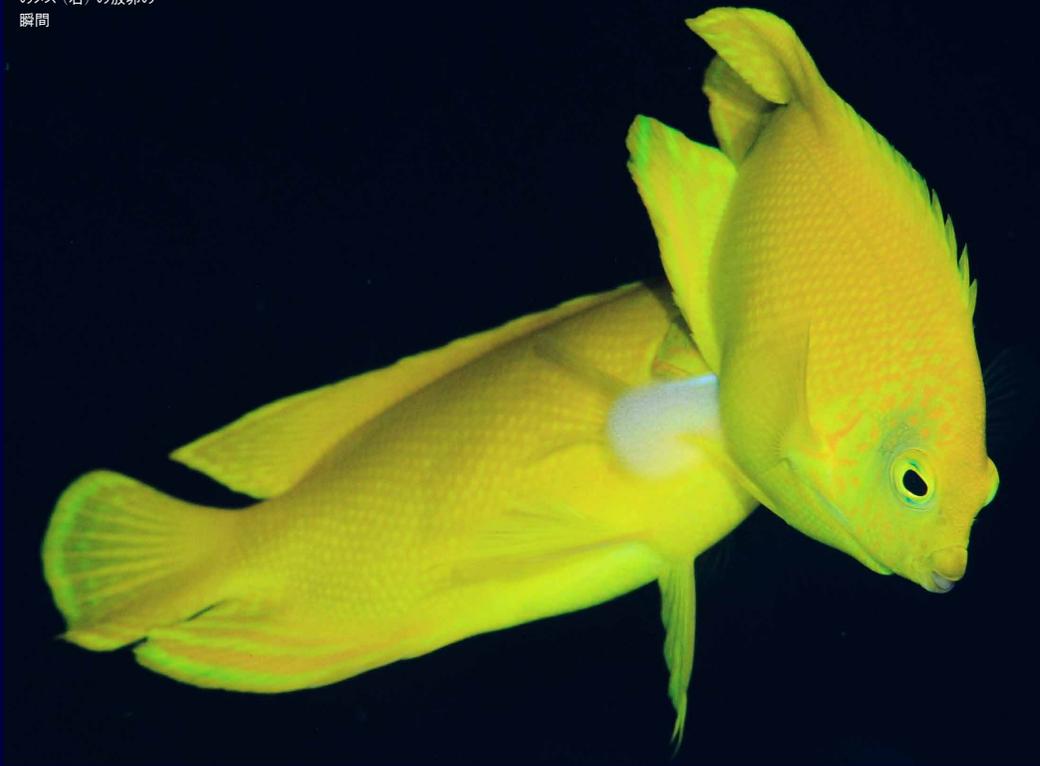
シテンヤッコが、放卵放精を行った瞬間

集団で放卵放精を行うサザナミハギ

久米島ダイビング紀行

命輝く季節・初夏の球美島

ヘラルドコガネヤッコ
のメス(右)の放卵の
瞬間



ヒレナガヤッコのメス
(左)の放卵の瞬間



同じ スロープのエリアでは、ヒレナガヤッコやシテンヤッコのオスが、メスのお腹にキスをして刺激するナズリングという行動のあと、一気に放卵放精を行う。

リーフトップでは、ヘラルドコガネヤッコのオスが、自分の縄張りにいるメスを数匹引き連れて、ナズリングを繰り返し、立て続けに抱卵放精を行っていた。

放卵の決定的瞬間！
サンセットダイブ

放卵後、オスが放精して、一気に離れる。その行為はあっという間だ



命輝く季節・初夏の球美島 **ダイビング紀行**



腹部に卵を抱える、ソリハシコモンエビ

ムチカラマツに卵を産みつけたガラスハゼ



01



02



久米島を代表する人気アイドル、モンツキカエルウオの卵保護。孵化するまで、オスが卵を守る



03

01/クマノミの卵保護はあちこちで見られる

02/ハナヤサイサンゴの中では、オオアカホシサンゴガニが卵を抱えていた

03/ニセクロスジギンゴも穴の中で卵を保護していた

放卵 放精をする魚たちとは別に、産み付けた卵が孵化するまで守る魚もいる。メスが産んだ卵を守るのは、ほとんどの場合オスの役目。「イクメン」パパが増えてきた日本の子育て。しかし、魚たちのオスはずっと前から「イクメン」パパたちだらけなのだ。そんなイクメンパパの魚たち。卵がハッチアウトするまでの間、どんな感じで卵を守っているのだろうか。

様々な魚たちの

卵保護



ハマクマノミが一生懸命守っていた卵のハッチアウト。感動の瞬間

種によって卵を産みつける場所が違って、面白い ズスメダイたちの卵保護6態



04



07



05



06



08

04/サンゴの下に卵を産みつける、オヤビツチャ属の一種

05/ガレ場の岩の下に卵を産みつけ、それを守るクロメガネスズメダイ

06/産卵床に卵を産みつけているミツボシクロスズメダイのペア

07/ムチヤギに産みつけた卵を守るヤマブキスズメダイのオス

08/ハナヤサイサンゴに卵を産みつけ、守るインガキスズメダイ

久米島ダイビング紀行

命輝く季節・初夏の球美島



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~dive-estivant/index.html>

関連情報HPへ



01

初夏 から夏にかけては、様々な魚の幼魚たちが見られるシーズンへと移行する。今回は、久米島の海で見つけた、そんな可愛い幼魚たちを少しだけご紹介。



01

01/ 皆でフィッシュウォッチングが楽しむ
02/ ガイドが、マクロな魚たちの居場所と生態を把握してるから、何を見せられても楽しい

小さなアイドルたちに癒される
可愛い幼魚たち



久米島の幼魚アイドルの代表格、ヒオドシベラの幼魚



ハナゴンベの幼魚はカラフルで美しい



見つけるとつい撮影したくなるタデジマキンチャクダイの幼魚



沖縄ではあまり見かけないアミメチョウウオの幼魚

久米島 **ダイビング紀行**

命輝く季節・初夏の球美島



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~dive-estivant/index.html>

関連情報HPへ



ESTIVANT
you-go

頼りになるエスティバンのガイドたち

今回 お世話になったのは、久米島のダイブ・エスティバン。オーナーガイドの川本剛志さんを筆頭に、海を愛する精鋭ガイドたちが余すところなく、球美の島の海中を案内してくれる。ゲストに楽しんでもらうために、潮の流れを読む事、生態観察に関して日々精進している彼らの姿勢は、「これぞ、プロガイド集団」と思わせてくれる。6人のガイド

が、53フィートと、久米島一の大型ダイビングポートYOU-GO号と、39フィート、18人乗りのエスティバン1号で対応。どちらも広々としたトイレと、ドライエリアがあるのが嬉しい。ビギナーやシニアダイバーのケアから、データをもとにした生態、潮を読んで大物を当てるダイビングなどなど、フォト派やマニアックなリクエストにも対応可能。



オーナーガイド 川本剛志さん

ガイド协会会长もつとめる、ガイドのエキスパート。久米島の海で常に魚たちの新しい生態を観察し、自らも水中カメラを持ってその美しいシーンを記録に収める水中写真家でもある。2年続けて一緒に潜り、ガイド力の高さを実感。写真撮影してもなかなか笑顔を見せてくれないので、一見気難しい印象があるが、とても周囲への気遣いをする人。そして、久米島の海と魚たちへの深い愛情とゲストへのそうした優しさが、エスティバンの人気の秘密でもある。

余談だが、写真のミヤビチュウコシオリエビは、川本さんが発見に貢献したこともあって、その学名（Munida Kawamotoi）には、彼の名前がつけられている。

久米島の海の魅力を、ガイド力で満喫させてくれる

ダイブ・エスティバン



大型ダイビングポートのyou-go



03



04



01



02

- 01/ 写真がたくさん飾ってあるジョップ内
- 02/ ミヤビチュウコシオリエビ
- 03/ 18人乗りのエスティバン1号
- 04/ 浅い海域を抜けてトンバラへ向かう



久米島のダイビング紀行

命輝く季節・初夏の球美島



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~dive-estivant/index.html>

関連情報HPへ